

## 第10 就労サポートセンターはくちょう

### 1 概況

令和5年度の運営にあたっては、事業所の理念に基づき、就労継続支援B型事業と共同生活援助事業を一体的に運営した。特に、権利擁護の推進、人権尊重を支援の根幹とし、利用者一人ひとりの思いや価値観を大切にするとともに、日々の生活に生きがいを持てるよう支援の充実に努めた。

就労継続支援B型事業では、経営基盤の強化に向け、新規利用者の獲得、年間利用率の向上に向け、障害特性に合わせた生産活動の提供を行い利用者一人ひとりに寄り添った支援に努めた。さらに、地域漁業関係者との繋がりを大切にし、ホタテ養殖資材加工等の水福連携に努める他、行政、福祉施設、市内の企業等と連携を図り安定した生産活動の提供に努めることができた。

共同生活援助事業においては、地域において自立した社会生活、日常生活を営むことができるよう支援体制の充実に努めた。さらに、多様化する個別のニーズに対し適切な福祉サービスが提供されるよう各種研修へ積極的に参加し、福祉サービスの向上と職員の資質向上に努めた。入居者の高齢化も顕著であり、本人の希望により一般就労から福祉的就労へ1人の方が移行した。また、疾病により入院中に1人の方が亡くなった、

感染症対策では、新型コロナウイルス感染症の位置付けが2類から5類へ移行したが、入居者の大半が基礎疾患を有し、罹患することで重篤化するリスクが極めて高いことから継続した感染症対策を行った。しかし、年間を通し10人を超える新型コロナへの罹患が確認され一時的に制限を行う結果となった。

災害対策では、コロナ禍により希薄化していた地域自治会との関係性を構築することを目的に、地域、行政、事業所での防災に向けた研修会を実施し、地域で想定される災害について理解を深めた。

地域貢献・地域交流については、例年参加している地域の清掃奉仕活動、駅前の花壇整備、平内町主催のイベント等へ積極的に参加し地域住民との交流及び事業所（グループホーム含む）の理解促進に努めた。

### 2 重点事項の実施状況

#### (1) 利用者の特性に応じた支援体制の構築（共通）

多様なニーズに対し、質の高い適切なサービスが提供できるよう、研修計画に則った事業所内外の研修（オンライン研修含む）へ積極的に参加し専門性の向上に努めた。

権利擁護の推進については、セルフチェック（毎月）、コンプライアンスチェックの実施（年2回）を事業所内外の研修（オンライン含む）を実施し啓発に努めた。

#### (2) 安定的経営基盤の構築（共通）

就労継続支援B型事業においては、2人の方と契約を締結し、2人の方が契約解除となった。1日あたりの平均利用者数は20.5人、利用率については100%を超える高い利用率（102%）を維持することができた。

共同生活援助事業においては、新規利用者獲得に向け相談支援事業所及び関係機関等と連携を図り、年度内に2人の方と契約を締結した。しかし、1人の方が疾病により入院中に死亡、残る1人は障害特性により共同生活が困難になったことから2人の方が契約解除となった。

(3) 感染症予防、災害発生時における管理体制の整備（共通）

感染症委員会を中心に、各種マニュアル（BCPを含む）の見直しと外部講師による利用者向けの学習会を実施し意識付けを行った（8/18 口腔衛生に関する学習会）

さらに、地域で想定される自然災害等（水害、地震、土砂災害）の非常事態に備え、防災マップを基にした地域住民合同の学習会を実施し、災害対策の強化に努めた。

(4) グループホーム運営に係る体制整備（共同生活援助事業）

老朽化に伴い修繕等が必要なグループホームについては、所有者へ情報提供を行うとともに、平内町内を中心に新たなグループホームとして見込める物件を不動産業者、平内町空家等バンク制度を活用しながら情報収集を行ったが、築年数が相当経過している等、新たな物件として見込めなかった。

(5) 生産活動の充実（就労継続支援B型事業）

新型コロナウイルス感染症及び物価高騰等の社会情勢により、受注減少していた請負作業について、地域の企業から新規請負作業を受注する他、収益性の高い生産活動の拡充と利用者の障害特性に見合った生産活動の充実に努めた。

### 3 職員の状況 ※（ ）兼務

職名	所長	副主任 支援員 (サビ菅)	支援員	事務員	世話人	調理員	合計
就労継続 支援B型 事業	1	1	4 (1)	1		3	10
共同生活 援助事業	(1)	1	2 (1)	(1)	6		9
計	1	2	6	1	6	3	19

※管理者は両事業の管理者を兼務

共同生活援助事業のサービス管理責任者は支援員を兼務

共同生活援助事業の支援員1人は就労継続支援B型事業の支援員を兼務

### 4 職員研修（共通）

人材育成実施要綱及び研修計画に基づいた事業所内外の各種研修へ積極的に参加するとともに、オンライン研修の充実を図り、専門的知識の習得と質の高いサービス提供に向け職員の資質向上に努めた。

### 5 年間行事

月	就労継続支援B型事業	共同生活援助事業
4月	浅所海岸清掃ボランティア	
5月	保護者懇談会	保護者懇談会 ドライブ外出
6月	大掃除、利用者の会 避難訓練（地震、津波、炊き出し体験）	避難訓練（火災想定） 地域交流（小湊駅前花壇整備）
7月	避難訓練（火災想定）	

8月	大掃除	調理実習
9月	不審者対応訓練、利用者の会	不審者対応訓練
10月	浅所海岸清掃ボランティア	
11月		避難訓練（風水害想定）
12月	利用者の会、大掃除	クリスマス会
1月	避難訓練（火災想定）	食事会
2月	苦情等解決協議会（虐待防止委員会含む）	苦情等解決協議会（虐待防止委員会含む）
3月	利用者の会	

※ 共同生活援助事業で予定していた利用者旅行（日帰り）については、新型コロナウイルス感染症の拡大を鑑み、各グループホームでの行事を充実した。

### 定例行事

内 容	回 数	備 考
体重測定 誕生日プレゼント贈呈	毎月1回	就労継続支援B型事業のみ
苦情相談日（第三者委員）	毎月1回	共通

## 6 健康管理（共通）

利用者の健康状態の把握と疾病の早期発見に努めた。新型コロナウイルス感染症対策では、感染症委員会を中心に感染症対応マニュアル及びBCP（業務継続計画）を見直し、感染症発症時の対応と感染拡大防止に努めた。

就労継続支援B型事業においては、外部講師（歯科衛生士会）による、口腔衛生に関する学習会を実施し、利用者へ歯磨きの大切さを意識付けした。

## 7 安全管理・防災対策（共通）

防災計画に則り、火災、地震、風水害を想定した避難訓練を計画的に実施し、利用者の安全確保と緊急時の対応に備えた。さらに、非常時を想定した炊き出し体験（ポリ袋で米を湯煎）を実施し、災害に対する意識付けと備えを共有した。

事業所内外における利用者の事故防止については、リスクマネジメント委員会を中心に、再発防止策を検討し職員間で情報共有に努めた。

不審者対応訓練については、危機管理マニュアル（不審者用）に基づき、関係機関への通報、利用者の退避誘導、刺股の使用方法等、一連の手順を確認、体得した。

《避難訓練実施状況》

就労継続支援B型	グループホームスワンハイム（第1・2・3）
6月23日（地震、津波想定） 炊き出し体験実施	6月16日（火災想定）
7月12日（火災想定）	9月28日（不審者対応訓練）
9月28日（不審者対応訓練）	11月27日（風水害想定）
11月10日（地域防災懇談会）	
1月17日（火災想定）	

## 8 苦情解決事業及び虐待防止対応（共通）

毎月1回、第三者委員と面談する機会を設けたほか、随時相談を受けることができる体制であることを説明して利用を促した。なお、実施にあたっては、虐待防止対応と連動し対応した。

区分	第1四半期	第2四半期	第3四半期	第4四半期	計
受付件数	0	0	0	0	0
解決件数	0	0	0	0	0
繰越件数	0	0	0	0	0

## 9 ボランティアの受入れ（就労継続支援B型事業）

受入人数	延べ日数	備考
1人	25日	余暇活動（将棋相手）

## 10 実習生等の受入（共通）

区分	受入期間	人数	学校等
実習	10月16日～10月20日間（5日間）	1人	青森県立青森第二養護学校
実習	・8月2日～9月14日（23日間） ・10月30日～11月20日（12日間）	2人	青森県立保健大学

## 11 社会参加の促進（地域貢献・地域交流）（共通）

- ① 平内町白鳥を守る会主催の浅所海岸清掃奉仕活動（4月、10月）へ延べ35人の利用者、職員が参加し、地域貢献と地域住民との交流を図った。  
冬期間においては、浅所海岸の除雪作業も行った。
- ② グループホーム第2スワンハイム近隣住民との交流及び事業所の理解促進を図るため、小湊駅前の花壇整備に参加した。
- ③ ハクチョウのまち再生事業（平内町教育委員会）実行委員会にオブザーバーとして参加し、地域の環境保全に努めた。
- ④ 近隣保育園との交流については年4回実施し関係性の維持に努めた。さらに、貴保育園の運動会に合わせ、園児の練習の場として当該事業所のグラウンド整備とグラウンドの開放に協力した。

## 12 広報関係（共通）

事業所リーフレット及び広報紙（年3回発行）を作成し、関係機関及び団体等に配布した。また、ホームページ等により事業所のPR活動に努めた。

## 13 所内会議・委員会（共通）

会議名	回数	備考
臨時全体会議	年1回	事業計画、指示・連絡事項
事業調整会議	年3回	事業計画、事業報告、事務分担等における協議
就労・生産支援会議	毎月1回	利用者支援及び生産活動について協議

GH（世話人）会議	毎月1回	共同生活を営むための相談、日常生活上の援助について協議
給食会議（利用者）	毎月1回	嗜好に合わせた献立、食生活における注意点の協議伝達
事業所会議	毎月1回	管理者からの指示事項ほか、協議伝達等
モニタリング調整会議	年2回	利用者の生活支援、作業支援について、個別支援計画を策定

委員会	回数	備考
虐待防止委員会	毎月1回	SDS チェック、虐待防止研修、啓発活動等
環境整備委員会	年3回	グラウンドの除草及び花壇整備、事業所内の大掃除 屋上排水溝の枯葉除去等
リスクマネジメント委員会	毎月1回	事故の検証及び再発防止策の検討
感染症対策委員会	年4回	感染症対策の見直し、マニュアル整備、利用者向け 学習会の企画・運営
危機管理委員会	年4回	自然災害等を含む不測の事態に備え、訓練の計画、 実施、振り返りを目的に実施
給食委員会	年4回	給食の内容、評価、検討等
サービスの質の向上委員会	年6回	提供する福祉サービスの向上に向けた検討

## 14 事業の実施状況

### I 就労継続支援B型事業

(1) 定員 20人

(2) 概要

雇用契約に基づく就労が困難な利用者へ生産活動及びその他の活動の機会を提供し就労に必要な知識、作業技術の向上に向けた支援を行った。

(3) 支援目標

- ① 利用者が持てる力を活かし、働く喜びと達成感を感じてもらえるよう、利用者一人ひとりの障害特性、心身の状態に合わせた生産活動を提供した。
- ② 多様なニーズに対し適切な支援が提供されるよう、利用者、家族の同意を得た上で、関係機関等を含めた情報共有に努めた。
- ③ 生産活動に加え、利用者からの要望に応え卓球用具、運動器具等を充実させ、利用者の健康増進と体力作りに努めた。

(4) 利用者の状況

区分	就労継続支援B型事業	備考
定員	20人	
年度当初 利用者数	25人 (男19人、女6人)	
年度末 利用者数	25人 (男19人、女6人)	契約2人、解除2人
平均年齢 (令和5年度末)	37歳 (男:39歳、女35歳)	

(5) 生産活動

請負作業、清掃作業を中心に、働くことへの意欲及び作業技術の向上を図ることを目的に、実践的な作業の場として事業所内外の就労の機会を提供した。

(6) 生産活動の売上状況

内容	金額	主な作業内容
清掃	3,021,312円	近隣福祉施設、公共トイレ及び当事業所の一般清掃
請負	1,813,514円	漁業資材加工、連携商品製造、企業からの受注作業、除雪等
計	4,834,826円	

(7) 工賃の支給状況

区分	支給計画	支給実績	備考
1人当たり 平均支給額	13,889円	17,404円	平均工賃月額は、前年度の工賃支払い総額÷前年度の開所日1日あたりの平均利用者数÷12月 ※工賃には、一時金(年2回)を含む

(8) 送迎体制

送迎車両4台体制で利用者の送迎を行った。

コース名	行き先
Aコース	小湊、東滝、東和
Bコース	内童子、小湊
Cコース	小豆沢、小湊、盛田
Dコース	浜子、清水川、東北町

## II 共同生活援助事業

(1) 定員 19人

(2) 概要

地域で共同生活を営む利用者に、食事の提供や金銭管理、健康管理等、日常生活上の援助や相談を行った。

(3) 支援目標

- ① 日々の生活に楽しさと充実感を感じられるよう、利用者一人ひとりのニーズに寄り添った支援を行った。
- ② 将来的に、高齢者施設等の入所施設を希望される利用者、家族へ意向の確認と情報提供を行い、必要時にはスムーズな施設移行ができるよう努めた。
- ③ 建物の老朽化に伴い、修繕が必要な場合は都度、所有者へ情報提供を行うとともに、移転に向けた不動産情報を収集したが、築年数が相当経過する等、新たな物件として見込めなかった。

(4) 利用者の状況

区分	共同生活援助事業	備考
定員	19人	
年度当初 利用者数	17人 (男12人、女5人)	
年度末 利用者数	17人 (男12人、女5人)	契約2人、解除2人

平均年齢 (令和5年度末)	46歳 (男44歳、女48歳)	
------------------	--------------------	--

(5) 地域交流・地域貢献

第2スワンハイム周辺の地域住民との交流及び事業所の理解促進を図るため、例年実施している小湊駅前の花壇整備に利用者5人、職員3人が参加した。